

# シンポジウム 三輪山の風景街道をつくる



2011年6月12日

一般社団法人うるわしの桜井をつくる会

## はじめに

一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会  
会長 堀井良殷

### シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」開催趣旨

- 魅力あるまちづくりには景観が重要であり、歴史と伝統に恵まれた桜井市においては、風景は貴重な資産でもある。わけても今回は街道づくりに焦点をあてて風景街道を生かした地域の活性化を提案したい。
- 緊急に取り組むべき課題として、中和幹線が開通して沿道の商業店舗出店が始っている。八木から桜井へと向かうこの街道は大神神社への車による参拝客の玄関口であり、さらにその向こうに長谷寺、談山神社、安倍文殊院、纏向遺跡など、まさに世界遺産級の古代大和の史跡、社殿、仏閣が立ち並ぶ。三輪山を中心にこれらの風景は、まさにまほろばの風景であり祖先から受け継ぎ子孫に渡していかなければならない貴重な財産である。現世代の恣意によって汚してしまうことは許されない。商業開発にあたっては最大限の景観、環境への配慮が必要である。
- さらに商業施設の誘致開発にあたっては最大限地元の物産の地産地消と地元の雇用創出を基本にすべきである。つまり地元の農産物、農産加工品、工芸品などを扱う店やこだわり食材のレストランなどを誘致しあるいは民泊を兼ねたグリーンツーリズムの拠点づくりなどのチャンスとすべきである。
- 古来の長谷街道、伊勢街道、山の辺の道などのイメージをまちづくりに生かしてゆき、街のブランドイメージを高めたい。

うるわしの桜井をつくり活力ある未来を拓こうという立場から、以上の様な点について各経験豊富なパネリストに意見と助言を頂き、今後の活動に活かして行くこととしたい

## 司会



**高瀬 安男 氏**

うるわしの桜井をつくる会事務局長

## パネリスト



**磯 三男 氏**

やまと郡山環境を良くする市民の会会長、地球温暖化活動推進員  
大和郡山百景写真集発行、奈良県第一回「明日の奈良」受賞



**栄嶋 まゆみ 氏**

風景街道まほろば連絡協議会会長、森とふれあう市民の会代表  
フラワーコーディネーター、京都府出身



**宗田 好史 氏**

京都府立大准教授、浜松出身、イタリアのローマ大学等に留学  
都市地域計画が専門



**中尾 晃史 氏**

奈良県まちづくり推進局地域デザイン推進課長、岐阜県出身



**中塚 一 氏**

(株)地域計画建築研究所 大阪事務所 取締役副所長 滋賀県出身  
都市計画まちづくりが専門

## シンポジウムコーディネーター



**堀井 良殷 氏**

うるわしの桜井をつくる会会長、大阪21世紀協会理事長

## 発言と提言

以下敬称略

### ●かけがえのないまほろばの風景・三輪山

#### 堀井

本日のご来場に感謝したい。またお忙しいなかご参加いただいたパネリストの皆様にもお礼申し上げる。

さて、我々の思いは、いま合唱した桜井の市歌そのもの。神の山、三輪山の麓を木の香ただよふ緑の町にしたい。明日の望みがみなぎるところ、桜井万葉のふるさと、ここを活力ある魅力ある町にするにはどうしたらいいか、というのがみんなの思い。私も桜井市民であり、みんなそう思っている筈だ。ところが現実を見ると、どうしても目先の利益に走るために、かけがえのないまほろばの風景が乱れている。そんな風景を子孫に残していいのか。ほんとに活力のある魅力あるまちづくりには長期的な視野、計画性が必要。もちろん経済的な活力も必要。美しい風景を守ること自体が利益につながることを、きちんと抑えて暮らしていきたいという思いで、今日のシンポジウムを開かせていただく。

本日は三輪山を中心とした街道の風景をどうつくっていけばいいかということに、焦点を絞って考えたい。えり抜き専門家の先生方をお招きした。ここは伊勢街道、初瀬街道、山辺の道もあり、談山神社、安倍文殊院、長谷寺、纏向遺跡につながる街道の集まってきている場所である。それぞれの街道の結節点であり参道でもある。その街道を住んでよし、また訪れてみたい桜井にするにはどうすればいいか、それぞれの立場からの経験やご意見、お知恵をいただき、その知恵を桜井のまちづくりに生かしていきたいというのがこの会議の趣旨である。

皆様に最初7分ずつ、ひとわりお話を聞きその後で具体的なアクションプランについてご意見をいただきたい。

というわけでトップバッターとして宗田先生。イタリアに長く滞在し海外の事情にも詳しく日本各地の特に農村を中心とした地域起こしに豊富な経験をお持ちの立場からまずはお話をいただきたい。

### ●自分の利益のために美しい風景を犠牲にしてよいのか

#### 宗田

皆様は万葉のふるさとの美しい風景を守ろうというお立場である。しかし誰かが風景を壊している。実際は誰かが土地を売って開発利益を独占し、まほろばの風景を壊している。それを許すような風潮がある。その決定をしたのが誰かということ、とことん追求していくことが大事だ。

風景を守ってきた背景にはまず信仰があった。信仰があるから山や道の風景が守られた。信

仰は伝統行事、地域の人々の伝統文化につながっていた。美しいふるさとがあったからこの町に住みたいという人も出てきた。元々住んでいた人も風景を大事にし、移り住んできた人はもっと大事にする。やがて新しい人々も地域の歴史にひかれて未来にわたって守ろうという意識が出てきた。これが風景を守るメカニズムである。ところがなぜか日本、この奈良ではなかなか地域の風景を守るという地域の文化が発現しなかった。



ローマのアップピア街道は、古代ローマで一番古い街道。ローマ人は支配地にいろんな街道を通したことで有名だが、このアップピア街道はローマ市の都心部から南への石畳の道で、これが今も守られている。ただ古いというだけではなくこの道を聖ペテロが歩いた。ペテロが捕縛を恐れ、逃げる途上、この地でキリストに会った。そこで、お前はまた逃げるのかといわれ、恥じたペテロはローマにもどり、はりつけにされ、今のサンピエトロ寺院が建立された。アップピア街道の風景をなくしたらバチカンもサンピエトロ寺院も成り立たない。イタリアの歴史にとってもローマの歴史にとっても絶対に必要なのだ。

この街道の周辺 1.2 キロ、長さは 32 キロには建物が無い。ここはローマのキリスト教のふるさとだから家は建てさせない。勝手な開発はしない。この土地は売らない。幹線道路が通っても周辺に変なものには建てないということがローマのアップピア街道沿いに住む人々の義務になっており、緑地帯がずっと南の方まで延びている。

国のまほろば、万葉のふるさとというくらいだったら、なぜこれくらいの気概を持ってないのか。皆さんそう思っているはずだが、誰かが義務を忘れてしまって、日本全国の地主と同じように好きに土地を売っていい、好きに建物を作っていいと思ってしまった。それでは万葉のふるさとという歌は嫌いになるだろう。

スペインの世界遺産サンティアゴのキリストの弟子が歩いたコポステーラの街道も、巡礼がたくさん歩く道として有名だが、この周辺もダムを造らせないと色々な規制をかけている。

もうひとつ、キリスト教フランチェスコのアッシジの町、多々あるキリスト教の聖地の中で非常に有名どころだ。アッシジの町を出てふもとの野原の中に小さな教会を建てたのが聖フランチェスコの長い修道生活の始まりであり、その風景は中世のままで残されている。フランチェスコの生まれた町、清貧な修道生活を始めた風景を壊してしまったらアッシジはアッシジでなくなる。

このような世界の文化遺産と同様に紀伊山地霊場の参詣の道が世界遺産に登録された。紀伊山地は桜井に比べたら田舎かもしれない。高野山も吉野も人口も少なく、開発もほとんどない。しかし、厳しい規制があり大峰や熊野の地元の人たちにご了解をいただき協力をいただいている。

同じように世界遺産になってはいないが、四国遍路を大勢の人が巡礼に歩く。巡礼のために地元の人々はお遍路さんに協力的で同時に風景を守っている。吉野の手前、明日香村でも一生

懸命風景を守ってきた。お米を作るのも小さい棚田で大変だ。いろんな工夫をしながら美しい日本の風景を守っている。

三輪山のふもとの桜井は明日香とくらべて、長い日本の歴史の中で勝ることはあっても劣ることはないと思う。地元の皆さんが、どうお考えになるかだ。明日香や桜井と比べたら遙かに歴史の新しい京都はたかだか 1200 年の歴史しかないが、祇園祭や世界遺産に登録された社寺の景観に合うようにといわれ、2007 年に新しい景観政策を打ち出した。

これも市民に、従来の考え方では多大な制限を我慢していただくことになった。経済的に損するという人もいた。でもその世界遺産のまわりには新しい町並みが、幹線通り沿いにも高さのそろった美しい家並みが必要だということを理解していただいて美しい景観をつくっていかうとしている。

ドイツのロマンティック街道は、景観保護に早く取組んだ例だが、その後の経緯を見ると、美しい町をつくることこそが開発であり発展であった。ロードサイドにショッピングセンターが並ぶ、パチンコ屋が増える、喧噪な町並みの中に 10 階建てのマンションが建つ、駅前に看板がずらっと並ぶというのは発展ではない。戦後の混乱期、高度経済成長の混乱期に、それ以前があまりに貧しかったので、その反動で田舎風の考えで豊かだと思った。一時期の気の迷いだと思う。そんな幻想にいつまでもこだわってはいけぬ。

## ● 20 世紀おじさんではダメだ

### 宗田

今日言いたいことは、やまとしうるわし万葉のふるさと、にも拘らず美しい国づくりを忘れた大和の人々よ目覚めよ、ということ。大変失礼な言い方だが三輪山を信仰の対象として大事にしていない。さっき栄嶋氏に伺ったら、毎朝三輪山に手を合わせる人が今でもおられるという。少なからずおられるそう。それなら町中から三輪山がちゃんと見え、その方々の信仰を邪魔しないため建物の高さ規制をするべきだ。それが都市計画だ。

駅前再開発をすとか道路を通すというのは戦後の混乱期の遅れた町をなんとか復興しようとするときには必要だったかもしれない。人口は増えない経済も成長しない時にいつまでも昭和の土建国家の道づくりをやっている場合ではない。もうそろそろ成熟した文化をちゃんと追求しよう。市民の暮らしの美意識を皆さんは持っている筈。町に花を飾りたい美しい風景をつくりたいと思っている人たちがいる。にも拘わらず、そんなことしたらお金にならないじゃないかという土建屋的発想や不動産屋的発想で、その美しい町を阻害することをいつまで許すのか。美しい風景をつくるのは誰の役割か、行政の役割もあるがそれを望む市民の力がある。市民の力というのは実は世の中を変える大きな力になる。

今までは一部の利権をほしい人がその利権の一部を政治家にまわす、選挙資金にするということが許された。それで平気で地権者が有利になるように、市街化調整区域を市街化区域に編入するということがおおいに行われた。でもその線引きで地権者個人はいいかもしれないが、その結果大和は国のまほろば万葉のふるさとの風景が壊れることにどうして気づかないのか。

その業者に土地を貸した人も線引きを許してしまった人も末代まで語りつごう。あそこのお父さんは見識がなかったからこの町を壊す決定に手を貸してしまったと。そんな人を選んだ選挙民の我々にも責任があったかもしれない。見識を欠き、市民の期待を裏切った。そのことは歴史的審判としてちゃんと語りつないでいかなければいけない。

これまでどこでも誰でもが好き勝手に土地を売り、下手に家を建てたから景観が壊されてきた。このことをきちっと直していかないといけない。自分の土地だからといってみんなに不快感をもたれていいのか。便利だからと一時的に車の客が来る大型ショッピングセンターに父祖の土地を売り渡したのは誰か。全国共通の没個性の店を建てて、その土地固有の風景を壊したのは誰か。名もない町ならともかく大和は国のまほろば万葉のふるさととして、市の歌で高らかに歌う桜井が、没個性なショッピングセンターをつくっていいはずがない。その結果ブームが去った後に廃墟をさらしている昔のボーリング場やパチンコ屋が国のまほろばの中にあっいていいのか。誰が撤去してくれるのか。そういうのが残っているのをいくつも見た。

日本は大きな転換期にある。だがその転換期に気づかない 20 世紀おじさんという昭和の土建国家の土地を売ってもうけようという発想がまだまだ残っている。不思議に女性にはこの発想が少ない。

この桜井の街もそうだが、奈良県は人口減少期に差し掛かっている。だからむしろ奈良県に住んでいない我々から見るともう少し人口が減って開発が止まってくれたら、美しい国のまほろば大和の風景が戻ってきて、静かな三輪山、耳成山のきれいなところが戻ってくるのにとさえ思う。だから中和幹線なんか国民からしたら迷惑もいいところだ。ごめんなさいね。奈良県民の皆様には生活に便利ないい道になると思うが、かつて、ここは大和三山、三輪山とかそれこそみんなが知っている景行天皇とかがいた。ヤマトタケルが大和しうるわしと詠んだところだ。ここはうるわしの桜井であってほしい。

高度成長の狂乱の時代に利権をむさぼった一部の人々がいたが、もうそろそろこんな事は許さない。21 世紀の行政や政治家だったら昭和の 20 世紀の誤った開発を根底から変えるということを書いてもらわないと困る。20 世紀の延長で利権をむさぼるために土地開発を許そうという発想があったらおかしい。

こんな考え方が今全国で普通の市民の感覚としてじわじわと広がっている。特に女性の力が出てくるところではまさに 20 世紀のおかしかった開発のスタイルを反省して、本来の民主主義の市民からのまちづくりを取り戻していこうとしている。利権をむさぼる人は声が大きい。だからそれを許してはいけない、今ちゃんと声を上げないと後の風景も壊れるばかり。この国のまほろば万葉のふるさとを勝手に壊さないでほしいと言いたかった。

## ●成熟の時代には暮らしの幸せを

### 宗田

21 世紀の日本人は「新しいモノ」をほしがらないまでに「成熟」した。今さら新しいからと言って 아이폰 なり液晶テレビなり新しいものをほしがらなくなった。お友達がいれば十分だ。

それからたくさんものをほしがらないほど豊かになった。我々の生活は豊かである。これ以上何が買えるか。だからものが売れなくなってきて、むしろモノがないのが幸せであると言うことに皆さん気がついてきた。それから自分のため、愛する人、家族のためということもさることながら、みんなのため尽くしたときもっと幸せになれることに気がついた。だからボランティアが盛んになってきている。東日本大震災があれば、家族のことをちょっとおいても助けにいきたいと思う。募金もずいぶん集まった。

今までは土地の所有者がここで町並みを守ることに賛成したら、息子たちがここに住めなくなるのではないかと心配した。農業を続けられないなら、息子に迷惑をかけるよりこの農地をショッピングセンターやパチンコ屋に貸した方が、地代収入が入るからいいと考えた。だけど息子さんはショッピングセンターやパチンコ屋やラブホテルに土地を貸して地代が入ることをほんとうに喜ぶのか。そんなことは愛する人のためになってない。むしろほんとに息子のことを考えるなら、その土地を所有することで周辺の人に迷惑をかけないような正しい自分の財産の管理、できればみんなのためになり息子の代になってもみんなから喜ばれるような土地の使い方をするというのを親は考えるべきだ。

目先の利益ではなくてほんとうの地域のためになるには自分の利益だけでダメだ。だから暮らしのなりわいを見直し、景観を守り美しい町をつくるということが大事だ。必死になって自分の家族を守らないと取り残されるという時代が50年ぐらい続いた。だから20世紀おじさんを責めるだけではいけない。確かにそういう時代のなかで苦しんだお父さん達がいた。ただ、いまは21世紀の成熟した時代、そろそろほんとうにどうすれば桜井の市民が幸せに暮らせるか考える時期に来ている。

## ●街路樹でまちづくりを

### 堀井

さすがに京都のまちづくりを先導しておられる宗田先生の鋭い指摘である。いちいちうなずくところが多いが、ではどうすればいいのかということについては沢山質問があるが、まずはひとわり意見を伺って後で質問したい。

次は現場でそういう趣旨は結構だけど現実は大変であるということで、大和郡山で活動している磯先生に体験報告と桜井のまちづくりについてご意見を伺う。

### 磯

私たちのボランティア活動を紹介する。桜井の街づくりに少しでも参考にして頂きたい。環境は広い概念があるので、活動が見えるように環境を地球、自然、生活、歴史文化で捉えている。この流れは進化の流れで、科学技術が進んで、アンバランスな進化がこの逆方向へとストレスを与えているのが環境問題である。

地球環境の活動は、郡山城での親子祭りのような機会を捉えて環境紙芝居やパネル展を行い、お母さんが朝幼稚園にお子様と通園したとき残ってもらい、お母さんたちに地球温暖化防止の



出前講座を行っている。スーパーマーケット環境問題の情報交換は、大手スーパー店長にお願いしてもうちの会社はこうやっていますと会社の方針の説明のみで、情報交換会に集まってくれない、そこで大手スーパーの本社に手紙を出し参加をお願いし参加してもらった。市内の大手スーパーと市の環境政策課が参加し、お互い環境の取組についての情報交換が出来た。マイバック運動などに協力して戴いている。

自然環境の活動は、緑豊かな街づくりのために緑豊かな街路樹づくりをお願いしている。沿道住民からアンケートを取り、県や市の道路管理者と定期的に打ち合わせを行っている。

街路樹の枝を毎秋伐採するため樹木が持つ自然の美しい樹形を成していない。だらしない樹形になっている。



緑豊かな街路樹づくりのために秋ケヤキの街路樹の枝を伐採していたところを、ほんの一部だが、試験的に切らないで枝を残しているところがあり、並木道に成長してきた。その様なところを、市民に声を掛け落ち葉の清掃をしている。

しかし、黄葉が過ぎて落ち葉の季節になると一部の市民から、落葉が座敷にまで入ってくると苦情が出た。それにたいして本来は美しい街づくりのために、市民とボランティアの間にはいって合意形成をしてほしいが、市は逃げてしまう。

昔から家の前の道路は住民が掃除していた。それは道路の利便性の対価であり、その事をよく説明した。美しい街づくりに協力お願いした。

緑豊かな街路樹は、良い景観の街づくりのほか、大気中の二酸化炭素を吸収固定化する唯一の働きを樹木が行っている。大気中に二酸化炭素が急激な勢いで増加し地球温暖化の原因になっているので、その防止のため道路に大きな影をつくる街路樹が必要である。

巨木調査もしている、4年目に入る。桜井市の立派な巨木調査報告書を見せて戴いた。

生活環境の活動は、清掃活動が主でボランティア活動の原点として捉え、会員皆さんが参加での活動としている。佐保川堤防や大和中央道など昨年度は 14km にわたって清掃活動もしている。最近ゴミが少なくなった。会員の参加が少なくとも、一般市民など周りを巻き込んで清掃活動を行っている。

歴史文化環境については、市内の良い「環境」を残す活動で、「やまと郡山百景」を選定し、冊子を作り皆さんに名所の紹介をしている。市の観光ボランティアにも協力をいただいて百景の地を歩く催しを行う。邪馬台国伝承地というのもあり探訪する催しを行った。邪馬台国は国内に 20 カ所以上の候補地がある。桜井市にもありますが。

今年は「茶の文化」探訪に重点をおいている。事業者である慈光院、菊屋等に協力をいただいて活動をしている。

三輪、桜井は歴史遺産が豊富にある。それらを生かしてすばらしい街づくりをして頂きたい。桜井の街路樹がある街づくりについて述べる。

桜井市は、歴史の街、三輪山を持つ町で三輪神社の街である。

三輪神社には参道があり、樹木が茂りその参道の奥に三輪神社があり三輪山がある。

「三輪山の風景街道」は、京都・大阪の街とは違い、はなやかさはいらぬ、古代からの歴史を持つ街で、日本の古里である。三輪神社の参道がある街だ。参道だけでは「点」で、参道の緑を「線」にし「面」にすることで、外から訪れる人に癒しさを与える、緑豊かな桜井の街づくりがふさわしい。

桜井駅の北側と南側を見ても、街路樹の剪定の形が異なる。

街路樹は樹冠まで育て並木道に茂り、街中が三輪山の参道になり、三輪神社の参道を持つ桜井市、参道が街中に広がり、緑が豊かに茂る桜井の街がふさわしいのではないかと。

桜井はいつ来ても心癒やされる街になる。いつ来ても、落ち着きがあり樹木が美しく癒やされる街がいい。

## ●景観行政団体へのとりくみを

### 堀井

市民の意識、ボランティア活動、行政との協働など様々な活動をしておられ学ぶことが多い。ここで話を拡散させないで絞り込みたい。

中和幹線が旧耳成高校からジャスコのあたりまで開通して大きな道路ができた。この幹線道路沿いの風景がこれからどのようになるかについて非常に我々は気がかりである。

だから街路樹ができればきちっと町並の中に定着してほしいし、できれば電線の地中化もしてほしい。さらにそこの両側にできる商業施設であれ、何であれ中和幹線沿いがどうなるかについて、これからつくっていくことだから我々は非常に気になる。今ではもう遅いかもしいが、今言わないと子々孫々にお前らが生きてるとき何をやっていたんだといわれる。だからどのようにすればいいのか。

奈良県のまちづくり推進局地域デザイン推進課長の中尾氏に、まほろばの国にふさわしい、まちづくりをどうすればできるのかお聞きしたい。景観三法が平成16年にできた。この法律はまさに奈良県のためにできたような法律である。この法律を使って京都市はずばらしい景観条例をつくりまちづくりを進めている。ここは奈良県としてどう考えるのかをお話し願いたい。

### 中尾

三輪や初瀬など地域のまちづくりにも関わっており、また、中和幹線の整備も担当しているので、中和幹線がこれからどのように利用されていくのか、気にかけている。相当の公共投資も行った道路であり、沿道では、中和の発展のための様々な開発が行われることも考えられるが、開発は一概に景観まちづくりと対立するものではない。

景観法は、それまで地方公共団体が景観を守ろうと様々な条例をつくってきたそうした過去の蓄積を踏まえ制定されたものである。

景観法では、景観を守りながらまちづくりを行っていく方法が示されているので、そうした方法を使うことで、景観と開発の調和を図ることができる。

さて、今回は、景観法の話も絡めながら、より具体的に、景観まちづくりをどう進めていくかという話をしたい。

三輪山周辺には、多くの社寺旧跡や町家等が数多く残る古い町並みがあり、三輪だけでなく桜井全体に、こうした活かすべき資産が多く存在している。

ここで、大きく、景観の資産を3つに分類したい。

- ①自然がつくりだしたものの。例えば三輪山。景観とは、景色を見ると書くが、単に山や川が存在するだけでなく、それを観るといふ人間の行為があつて、初めて成立するものである。したがって、景観を活かすには、例えば、三輪山を美しく、よく見えるように配慮しなければならない。
- ②人間が作りだしてきた民間の町家などの建物や街並み。このような景観を活かすには、町並みの中で突然、周囲と調和しない色やデザインの建物が建たないようにしたり、町家等の資産を失わないよう残すことが大切である。
- ③人間、特に公が作る公共施設。道路や公共建築物などの公共施設を作るときに、周囲の街並みと調和するような色彩、デザインにしなければならない。

このようなことが景観まちづくりのためには重要である。

それでは、上述のような景観を守り、あるいは、創り出すためには、どのような方法があるだろうか。ここでは、規制、公共の支援、公共施設のデザイン改善、建物所有者の一人一人の活動という四つの方法を紹介したい。

まず、規制について。重要な景観を守るためには、建築物の新築や改築の際に、建築物の色彩やデザインが周囲の景観を乱さないように規制を行う。あるいは、現存する景観的に重要な町家を改築する場合には、その景観的な価値を維持するための規制を行う。これらは、景観法に定める景観計画を策定することにより、行うことができる。

桜井市はこれから景観計画を策定していくと聞いているが、景観計画により、どのような景観を維持するため、何をどこまで守るかという目的を定め、その上で、どの地域のどの範囲の建築物にどのような規制を課していくかを決めていくことが重要となる。

地区ごとに規制の内容を変えることもできる。景観の規制に加え、都市計画を併用すれば、高さ規制などより厳しいルールを設定することもできる。

なお、景観計画を策定する地方公共団体は景観行政団体になる必要がある。現在、奈良県では奈良県のほかに奈良市、橿原市、生駒市、斑鳩町、明日香村の6団体が景観行政団体となっている。

桜井市はこれから景観行政団体になる予定である。堀井会長のご指摘のように、景観法ができたのに、奈良県では、景観法による景観保全の手段がまだ十分使われていないと思っている。

県が策定した景観計画では桜井市内も計画の対象にしているが、県計画はそもそも広域的な視点からのものになるので、例えば、国道169号線は規制対象にしているが、三輪や初瀬のように、より個別の地域までは対象としていない。したがって、そのような個別地域については市町村が景観計画を策定しないとイケない。県との協議の上、桜井市が景観行政団体になり、景観計画を策定していくことは何ら難しいものではない。景観計画の策定に向けた作業をどん

どん進めていただきたい。

二つ目は支援の話。原則的に、町家など個人財産の建築物に公的資金を投入するのは、通常は難しい。しかしながら、文化財指定までは受けられない町家のような建築物でも、景観計画で景観上重要な建築物と位置付ければ、修理等に国の補助を受けられる。

とはいえ、景観保全のための個人財産への財政支援メニューは、充実しているとはいええない状況である。金銭以外の支援としては、例えば、景観上価値のある町屋が空き家となって朽ちていかないよう、県内の空き町家の情報を集約して、潜在的な借り手向けにホームページで紹介したり、また、景観まちづくりを含め、地元の方々が手作りで行うまちづくりを支援するため、まちづくりのノウハウや情報を提供するまちづくりコンシェルジュを県庁に組織し、県内各地に派遣している。

三つ目は公共施設の改善の話。道路や公共建築物は、県や市町村が建設・管理するものなので、県や市町村は、自ら、これらを景観上美しくしていくことができる。

例えば、電線の地中化、道路のカラー舗装、ガードレールの茶色化、街路樹や沿道の植栽などである。ただし一方で、このような公共投資は財政を圧迫することにもなるので、どこを優先的にやっていくか、しっかり選択していかなければいけない。景観計画の中で、そのような優先順位を決めていくことも一案である。

例えば、大神神社は、伊勢神宮や出雲大社とも肩を並べるような大和の国の一宮であるが、その参道でもある県道三輪山線は、美しいとは言えない。地元、市、県が一つになれば、上品な参道に改修していく計画を動かせるのではないか。個人財産の改修よりは、公共財産の改修の方が、比較的手をつけやすいのではないか。

四つ目は民間の活動。地元の住民や企業が、景観まちづくりの具体的な目標を持って、やれることからやっていくことが大事。県や市が道路をきれいにするだけでは、まちはきれいにならない。県や市にばかり期待せず、民間が、例えば、沿道の軒先にプランターの花を並べたり、沿道を掃除や除草したりする活動が大事。また本日のシンポジウムのような活動や、景観計画を策定していく中での行政と地元との調整過程などは地元の皆様が、景観を重視したまちづくりの大切さについて、意識を深める貴重なきっかけであり、このような活動は重要な意味がある。

## ●国道24号線の愚を繰り返すな

### 堀井

桜井市は是非とも来年度から景観行政団体になってほしい。そのためには景観計画をつくらねばならない。どのような風景を作ればいいのかもこの後聞きたい。危機感を持っているのは、八木から郡山を通して奈良に向かう国道24号線を思い浮かべていただきたい。

とにかく郊外量販店がずらりと並び、建物看板が並び、のぼりがはためきどこの町へ行ったかよくわからない。日本中どこの町へ行っても似たような風景が広がって個性がない。

あんなことやって商売がうまくいくわけがない。どこへ行っても同じだから桜井へ行こうと

思わないだろう。そんなごちゃごちゃの街で店が繁栄するとは思えない。

桜井を国道 24 号線のようにしたくない。ジャスコがありコメリがあり、その前に JA がガソリンスタンドの真っ赤なサイン看板を出している。悪気はないにしても意識があればそんなことはしないはずだ。さらに三輪山の真ん中にぎらぎらのネオンが目立ったりして危機感を覚える。

平城遷都 1300 年祭のときに奈良の大宮通をどうするか。すでに手のつけられない状況になっている中で、悪戦苦闘した地域計画建築研究所の中塚氏にそういう経験も踏まえて今後具体的にどういう手段があるのかということを知りたい。

## ●付加価値をつけたまちづくり

### 中塚

中和幹線の現場を拝見した。新規開通した部分を中心に新たな商業開発の声が上がっている中で、三輪山の風景街道をつくるという今回の趣旨に沿って、どこまで、どのように努力していけばいいのか。どういう方法があるのかというのが今日のテーマ。

まずは、幹線道路における商業開発の仕組み、幹線道路における景観形成の手法、大宮通りの事例の紹介を 3 点についてお話ししたい。

商業開発の仕組みについては、20 世紀型ではまず飲食店、ガソリンスタンド、中古車販売、パチンコ、ホテル等ができて、その後、大型専門店、レストラン、カフェ、最後に複合商業施設ができる。道路ができ店舗がはりつき、車も増え地価も上昇するシステムであった。

今後もこの形がいいのかという問題がある。個人的には桜井市では、付加価値がある魅力的なレストラン、カフェを中心とした沿道づくりが望ましい。

また、ロードサイド店舗の仕組みとして大きく、定期借地権方式と建設協力金方式がある。特に後者については、地主の方が大きくかわることになる。建物も地主の所有となるので、看板や色彩にも地主の意向を反映させることができるため、地主の方々の景観まちづくりへの積極的な参加が重要である。

現在、幹線道路における景観手法として、風致地区や古都保存法による規制が、当該地域にかかっていない。桜井市は景観行政団体にはなっていないので、現在は、奈良県の景観計画に基づいて、重点景観形成区域による規制が幹線道路にかかっている。ただ奈良県全体のルールなのであまり厳しいことは決められず、比較的ゆるやかな規制がかかっている。今後、桜井市が景観行政団体になると、これをどういう形で引き継ぐのがポイント。

一方、初瀬や三輪では県のコンシェルジュが参画して、地元と協働でまちづくりがなされている。そういう意味では景観基準をつくるときに、奈良県の重点景観形成区域のルールと今動いているまちづくりを含めて、景観形成区域を指定していくことを提案する。行政が勝手に決めるのではなく、地域の方々との話し合いにより合意形成をしたところから、一步一步決めていくのがいい。また、景観計画による規制に加え、地元の想いや意向を踏まえたガイドラインを策定するのを提案する。

## ●景観まちづくり作法集をつくる

### 中塚

大宮通りの事例では、話し合いをして合意形成に至るには時間がかかった。しかし遠回りと感じる方もおられるが、話し合う場を継続していくことが最も大切である。平成 20 年から 3 年間、地域の方々と行政が一緒になって、「大宮通景観まちづくりワークショップ」を 16 回開催。会議室の話し合いだけでは不十分なので、まち歩きやまちづくりイベント、事例視察を開催された。花づくりイベントや子ども達を対象とした景観まちづくり学習等を行い、幅広い参加者に考えてもらった。

3年間の思いをまとめたのが大宮通り景観まちづくり作法集で、地域の皆さんに大宮通りに対する「想い」をもとに、景観まちづくりを考えていく上での基本的な方針やアイデア、ヒントをまとめたものである。地域にかかわる様々な人々が、お互いの信頼関係の中で切磋琢磨しながら、皆で協力してより質の高い景観まちづくりをめざしている。

「おもてなしの心でつくる麗し大和の大宮通」というテーマで景観まちづくりを進め、わかりやすい言葉で次の7つの作法を決めた。

1. 若草山を活かす
2. 平城京・朱雀門を感じさせる
3. 安全・安心感をつくる
4. 人が見やすい大きさにあわせる
5. まちなみをつなげる
6. きれいな通りにする
7. 魅力的なまち角をつくる

景観まちづくりにおいて、プロセスを大切にすることが大事である。大きな流れとして

- ① 現状の把握・共有
- ② 景観に対するイメージづくり
- ③ 景観まちづくりの具体的な取り組みの検討・実施
- ④ 景観まちづくりの自主的な取り組みの検討・実施等

以上のようなプロセスを大切にしたい。



## ●NPOが連携して市民力強化

### 堀井

次は桜井市でも様々なボランティア活動が行われている。その中から「うるわしの桜井をつくる会」の会員でもある栄嶋氏から、風景街道まほろば連絡協議会の内容を中心に地元桜井で

の活動を聞きたい。

## 栄嶋

住民の側でどのような取り組みができるかということで三輪座のまちづくり活動をお話したい。まず、まちづくりを今まで進めてきた中で大きく三つの転機があった。

一つ目は様々な立場の人が集まるきっかけがあり、次にそれが組織となっていくきっかけがあって、三つ目のきっかけで物理的な拠点ができ、まちづくりが進められた。

最初のきっかけは、社叢(しゃそう)学会という団体から依頼された桜井市の鎮守の森調査だ。市内には鎮守の森が約 120 か所あるといわれているが、これを調査するという事で様々な立場の人が集まった。

調査に当たっては桜井市、桜井市教育委員会、自治連合会等の協力とそこに市民団体等で活動していた人が個人のボランティアとして参加した。限られた時間の中で鎮守の森の植生と、鎮守の森を中心としたコミュニティの調査を進めていく中で、住民であった自分達自身がこんなに魅力的な地域資源があるということを改めて認識し、それを発信していきたいという同じ思いの仲間が集まって、森とふれあう市民の会を設立した。これが人のつながりを生み、桜井の様々な課題が見えるようになった。森とふれあう市民の会の活動は今も継続し、桜井の地域資源を大切に次世代に繋げる活動をしている。

平成 17 年度に奈良市の奈良まちづくりセンターが県と NPO の協働事業で、三輪地域における地域に根差した景観まちづくり事業の採択を受けた。その運営を森とふれあう市民の会に委託した。これがまちづくりに取り組んでいくきっかけになる。18 年度は森とふれあう市民の会が直接事業を受け、その後三輪座が受け継ぐことになった。

最初の年は市民との座談会や畿央大学の景観調査、景観に関するワークショップを開催してシンポジウムで報告をした。次年度は地域の小学校の総合学習の時間で自分たちの地元を調べてもらい、畿央大学にも卒業制作として関わってもらって「三輪まち歩きときめきマップ」を成果品として作った。この事業を通して任意団体として始まった三輪座という組織が確立した。「三輪座」という名称は三輪のまちづくりだけをするためにあるのではなく、まちづくりをするものが三輪にいる、三輪からまずまちづくりに取り組む、という意味。三輪駅前の空き家を拠点とし、そこで自分たちができることから始めようという姿勢であった。



次の転機が「建設業と地域の元気回復事業による拠点整備」。これは物理的な拠点を整備することができる事業である。駅前の拠点がカフェとアンテナショップに変身し、町中での古民家を改修したギャラリーが完成し、事務的なスペースも確保できた。ふるさと雇用という形で人件費助成を受け、9 名のスタッフで雑貨市や月灯りなどのにぎわいを作る事業、情報発信としてのホームページやブログ、新聞の発行などに取り組んでいる。

次のステップでは、現状のボランティアベースのまちづくりから脱却し、自らが事業を生み

出し、利益も確保して雇用も創出していく。それにつながる事業が国交省のフロンティア事業。「町家リフォームと新築市場の開拓」ということで、地元の吉野材を使用した住宅をつくり、町家の街並みに沿ったデザインをとり入れ、事業者は地元の顔の見える関係で組織し、クライアント自ら建築に参加してもらおう。住んでいる人に住み続けてもらい、Iターン・Uターン者の確保で定住人口の増加を目指す。

このような三輪座主体の事業のほか、いま「本町通とその周辺の魅力を見つけよう」という事業が協議会の体制で進められている。また、初瀬でもNPOができています。ほかにも活発に活動している団体がある。其々の組織がお互いの連携を意識して繋がりを持てば、市民力が強化される。そういうまちづくりが桜井市の中で発展していくことが望まれる。

## ●会場の声—アクセスの向上を、先進地視察など

### 堀井

事務局からの報告によると、本日の参加者は132名である。市外からの参加も多い。

### 一般質問者

私は永らく公務員で退職して4年目である。大阪市内から斑鳩はすぐ来られる。桜井、三輪は遠い。鉄道に自転車を乗せられるようにしてほしい。国道25号線等に自転車道の整備も期待したい。そうしたら人も集まる。

### 東市議会議員

なぜ桜井市がこの会を開催しないのかといわれる。私も「うるわしの桜井をつくる会」の会員だが、これを機会に景観について勉強したい。桜井から景観の先進地を視察したい。どこがいいか。

### 堀井

回答はこのあとのパネリストの発言のなかで・・・

## ●地産地消と雇用

### 堀井

私からも宗田氏、中塚氏に聞きたいが、地元の雇用につながるまちづくりはどうすればよいか。私は穴師という農村集落に住んでいる。専業農家は少なくなってみんな勤めに出ている。しかし桜井市内には勤める場所がない。だから通勤することになる。そうすると通勤に便利なところへと村から出て行く。子供の姿が消えて過疎化して限界集落への道をたどっていくのかと心配だ。

桜井市が求心力を持って雇用を創出できれば地元で働きたい人は多いし若者も戻ってくる。



どうすれば雇用が創出できるのか。中和幹線ができて商業開発ができるなら地元雇用につながるようにしてもらいたい。量販店が来て利益だけ持っていくというのではなく、地元にお金が落ちるようなまちづくりをしたい。さらに農産物、大和野菜とか大和の地鶏とかをそこできちっと扱うような店を誘致するにはどうすればいいのか。その裏には地権者にどう納得してもらうのか、ただ長期的利益のために我慢しろといわれても地権者はなかなか納得してくれない。景観を大事にしたら経済的繁栄にうまくつながっていくことを示さないといけない。

中尾氏にも聞きたい。桜井市がどういう風景を作ればいいのか県の立場ではなく中尾氏の個人的意見を聞きたい。

## ●カムバック サーモン政策

### 宗田

人口が少ない地域で、工場を誘致するとか商業施設を誘致するという開発方法は、今や完全に崩れた。工場は来ない。大型店が来ると多少雇用が生まれるかもしれない。でも犯罪が増える。とくに少年犯罪が増える。殺人事件が起きるのは必ず郊外的大型店だと言われる。だから、ロードサイド店をつくることは社会問題化している。市街化区域編入の決定に加わった方は、今後この町で少年犯罪が起きた場合責任を感じてほしい。

企業誘致と雇用の問題に関していうと、長野県の飯田市で非常に優れた解決方法をとっている。「カムバックサーモン政策」と呼ぶ。サーモン（鮭）とは、飯田出身で都会に暮らす人々に故郷に戻ってきてほしい、それも子供が生まれたら、子育て中だけでいいから1年ほど実家に帰っておいで。ご主人の実家でもいいし奥さんの実家でもいい。飯田市は里帰りの人々に市営住宅を提供する。そもそも飯田は物価が安い、環境がいい。東京の郊外で賃貸住宅に住んで子育てするのなら、爺さん婆さんがそばにいて、保育所にも空きがある、諸費用も援助する、若い父さんには都会に単身赴任してもらって、お母さんが子育ての間は田舎に戻っておいでという政策である。

地元には大学も職場もないから東京に出るのはしょうがない。しかし一時帰郷のお母さんには時給は最低賃金に近くても、再生した町家、蔵などでの店で働く場所がある。そうすれば地域の個性を生かしたまちづくりにつながる。飯田は環境政策や町並み政策、景観政策、中心市街地活性化などしっかりとした成果を上げている町であり、全国には、かしこく成果をあげている自治体がいくつもある。それを知らないのは不勉強だと思う。

視察に行ってもだめだ。何が守るべき景観か、何がその景観を壊しているか、何がふさわしくない建物かをはっきりと自分たちで見出していただきたい。これはふさわしくないというべきだ。ロードサイドの不適當な看板を見つけたら、写真にとって市民に見せよう。「うるわしの桜井をつくる会」で桜井市景観計画試案を出せばいい。そうすれば町も発展するし、実際飯田市は繁栄している。

## 堀井

視察とはノウハウを知りたいわけで単に見に行くわけではない。どうしたら実現できるかという方法がわからないから先進地域の知恵を知りたい。

## ●パワースポットとおいしいもの街道

### 中塚

地域の内発的な経済活用による雇用の創出と、美しい景観をつくるまちづくりの中で、桜井での暮らし方、ライフ・スタイルを発信する必要がある。大阪から近いだけでは、居住地として桜井は選択されない。桜井を選択してもらう何かの意味づけ、物語が必要だ。

例えば、兵庫県の篠山市では、美山（ミヤマ）の集落の中に今までなかった一泊五万円の宿泊施設ができ、地域の雇用も生まれている。地域の資源を見つけないといけない。これからは、見るだけの旧来型の観光地には人は集まらない。

観光客は、旧来型のパンフレットに載っているお店にはいかずに、インターネットや口コミによる地元の人が好むレストランに集まる。桜井市の市民自身がおいしいと思う店を発信していかなければこれからは観光的には厳しい。おいしいものがある町は強いので、素麺に加え、他に新しいものを作っていけばいい。

### 中尾

桜井市には古い歴史があり、万葉集の第1番目の歌は桜井を歌っている。三輪山と大鳥居を目立たせるような景観づくりは大事ではないか。最近、三輪山はパワースポットにもなっている。車からの眺望だけではなく、実際歩いて見える眺望も確認することが大事。

### 堀井

旧耳成高校を過ぎると古代の国桜井に入ったなとか、三輪山の参道だなと思えるのが良い。食べ物も重要だから大和おいしい街道みたいなもできればいい。カラー舗装、電柱の地中化や自転車道も必要だ。中塚氏も県としてうわしのまちづくりに協力してほしい。宗田氏や中塚氏も今後も計画に知恵を貸して下さるようお願いしたい。（各氏了承）

## まとめと提言

- 1) 神の山、三輪山や万葉のふるさとの風景をまちづくりの基本に置くこと
- 2) 桜井市が早急に景観行政団体になること
- 3) 景観計画策定にあたっては21世紀型の人間本位の成熟都市をめざすこと
- 4) 桜井市民の雇用創出と地産地消に資するまちづくりを推進すること
- 5) 個人的短期的利益よりまち全体の長期的利益を優先すること
- 6) 中和幹線沿いの地権者や進出候補企業と市民との話し合いの場を設定すること
- 7) 街路樹、電柱、ガードレール、標識など公共物件のデザイン化をはかること
- 8) まちづくり作法集を市民・行政共同で作成すること
- 9) 活動しているNPOや各種団体の連携を強化推進すること
- 10) 先進地域の事例研究を行うこと

### 堀井

今回のシンポジウムで多くの示唆に富むご意見や助言・提言を頂いた。これから私たちの地域の都市計画やまちづくりに、これらを活かして行かなければならない。記録冊子を是非多くの方々に読んで頂き、みんなで意見を出し合いながら、より良い桜井づくりを推進していきたい。

### シンポジウム

#### 三輪山の風景街道をつくる

平成23年9月10日発行

一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会

〒633-0091 桜井市桜井 1259 エルト桜井内

Tel&Fax 0744-47-3981

URL <http://lets.some.jp> E-mail [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

桜井市歌 万葉のふるさと

作詞 高田直和  
作曲 梅谷忠洋



や ま と は 一 く に の ま ほ ろ ば と



う た い つ が れ て い ま も な お



な が い れ き し の な が れ の な か で こ だ



い ぶ ん か の い き づ く と こ ろ あ



あ さ く ら い ま ん よ の ふ る さ と よ

高田直和 作詞  
梅谷忠洋 作曲・編曲

桜井市歌

万葉のふるさと

アンサンブル・ボツカ

コロムビア・オーケストラ

一、大和は国の まほろばと

うたいつがれて 今もなお

長い歴史の 流れの中で

古代文化の 息づくところ

あ・桜井 万葉のふるさとよ

二、見上げる空は 茜さし

けだかく匂う 山ざくら

磐余 山の辺 光にもえて

詩歌の心の あふれるところ

あ・桜井 万葉のふるさとよ

三、紫雲たなびく 大杉に

夢もこだます 神の山

木の香ただよう みどりの街に

明日の希望が みなぎるところ

あ・桜井 万葉のふるさとよ



